



全国学力学習状況調査・埼玉県学力学習状況調査から  
 笹井小の児童は何が伸びたか！ 何が課題か？

＜笹井小ホームページにカラー版を掲載予定です。読みにくいところはホームページでご確認ください＞

本年度4月に実施された、全国学力学習状況調査並びに埼玉県学力学習状況調査の結果について報告いたします。全国学力学習状況調査は、対象学年が第6学年です。調査内容は第5学年までの国語・算数の学習の達成状況と生活や学習に関する調査からなります。10月の学校公開日には学力向上連続講座⑤として全国学力学習状況調査で本校として課題のあった問題についての解説と解決のための家庭での取り組みについてお話しする計画です。

全国学力学習状況調査の調査対象学年は6年生、県学力学習状況調査の対象学年は4・5・6年生です。調査対象教科は、全国学力学習状況調査は国語、算数、理科です。埼玉県学力学習状況調査は国語、算数です。併せて両調査とも児童の学習や生活に関する調査も行いました。6年生が2つの調査を受けているのは、全国の調査が各学習内容の定着度に重点を置いているのに対し、県の調査は学力では教科ごとの定着と共に個人の伸びを分析し、中学校につながる長い目で学力の伸びを捉えていこうとしているためです。

1 全国学力学習状況調査から (実施対象第6学年)

まず、今回の状況調査について報告します。

(1) 本校教育の現状

全国平均を100とすると、調査教科別では、国語Bと理科が全国平均とほぼ同じでした。国語A、算数A、B問題の正答数の割合は、全国平均を下回って課題がそれぞれにあることが分かりました。

【観点別：国語】

A問題では、「話すこと・聞くこと書くこと・聞くこと」「読むこと」は全国平均を上回りました。「書くこと」はわずかに及びませんでした。しかし、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均に比べて正答率が低くだけでなく、無回答数も多く大きな課題があります。

B問題は「話すこと・聞くこと」は全国平均を上回りましたが、「読むこと」は、大きな課題があることがわかりました。(数値は全国平均を100%として表示した。裏面にグラフあり)

【観点別：算数】

A問題では、「量と測定」が全国平均と同程度でした。「図形」と「数と計算」に関する問題では全国平均に届きませんでした。「数量関係」の結果は、全国平均比で20%ほど低くなっています。(正答率は13%ほど低い) B問題は5~10%ほど正答率が低く問題ごとの対策が必要です。(グラフは裏面)

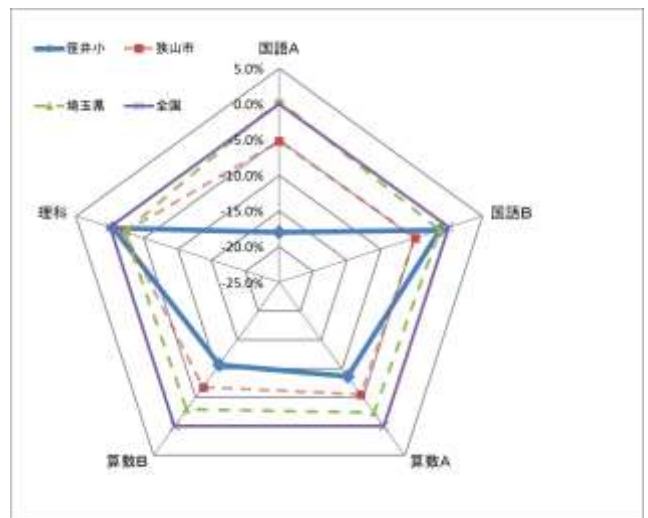
【知識や活用：理科】

「知識」は正答率82%で全国平均より+4%、  
 「活用」は正答率55%で全校平均より-1.2%  
 となっている。(グラフは裏面)

- 1 調査項目 国語、算数、理科
- 2 調査教科の調査結果

① 全体の結果

- 国語 A (知識に関する問題) 国語 B (活用に関する問題)
- 算数 A (知識に関する問題) 算数 B (活用に関する問題)
- 理科 (知識、活用に関する問題)



③教科別の問題ごとの分野別解答の傾向

(○全国より高い ▲全国より低い)

1) 国語A問題での課題等

- ①主述の関係に注意して書く。
- ②話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめる。  
⇒正確に伝える力、正しく理解する力が様々なコミュニケーションに生かされる。
- ③同じ音や同じ部分を持つ漢字から正しい使い方にあうものを選ぶ。(A-8:問題が工夫されているが、読み取れていない  
5問とも正解率が平均-20%:無回答25%)

2) 国語B問題

- ①複数の資料を読み取り、理解したことを関係づけて表現する。  
⇒様々な学習の場で身に付けたことを有効に活用できることが自ら確かめられる。  
(B2-2の正答率:全国13.5% 笹井小8.6%)

3) 算数A問題

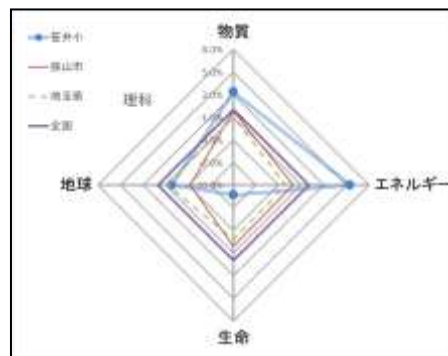
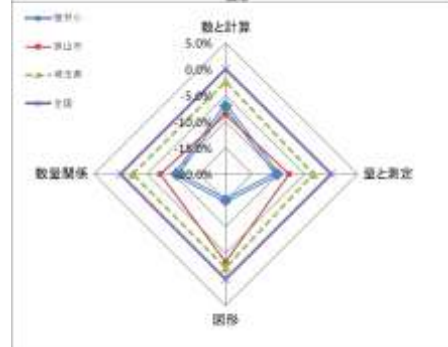
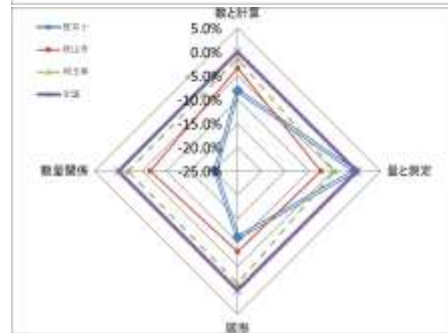
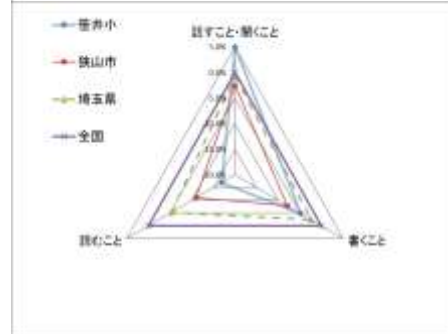
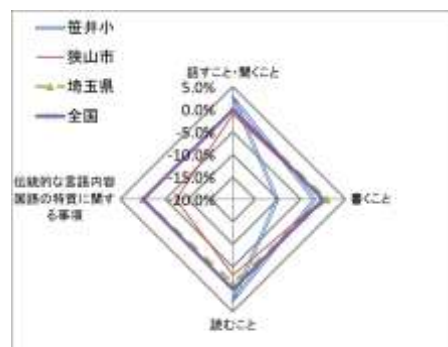
- ▲①除法の意味の理解  
⇒計算で得た数値が適切か判断する力  
全国平均 39.9% 笹井小 31.0%
- ②円の直径の長さとお周の関係  
※直径の長さを2倍にした時の円周の長さは何倍になるか?  
(A-7 全国 41.3% 笹井小 43.1%)

4) 算数B問題

- ①多種のグラフからそれぞれが示していることを適切に読み取ること。※数値が適切であるか判断する力  
(B3-2 全国 20.7% 笹井小 8.6%)  
⇒社会科、理科等の学習や新聞、ニュース番組などの読み取り
- ②順番につなげた輪飾りの色を予想する。  
(B5-2 全国 66.5% 笹井小 74.1%)

5) 理科

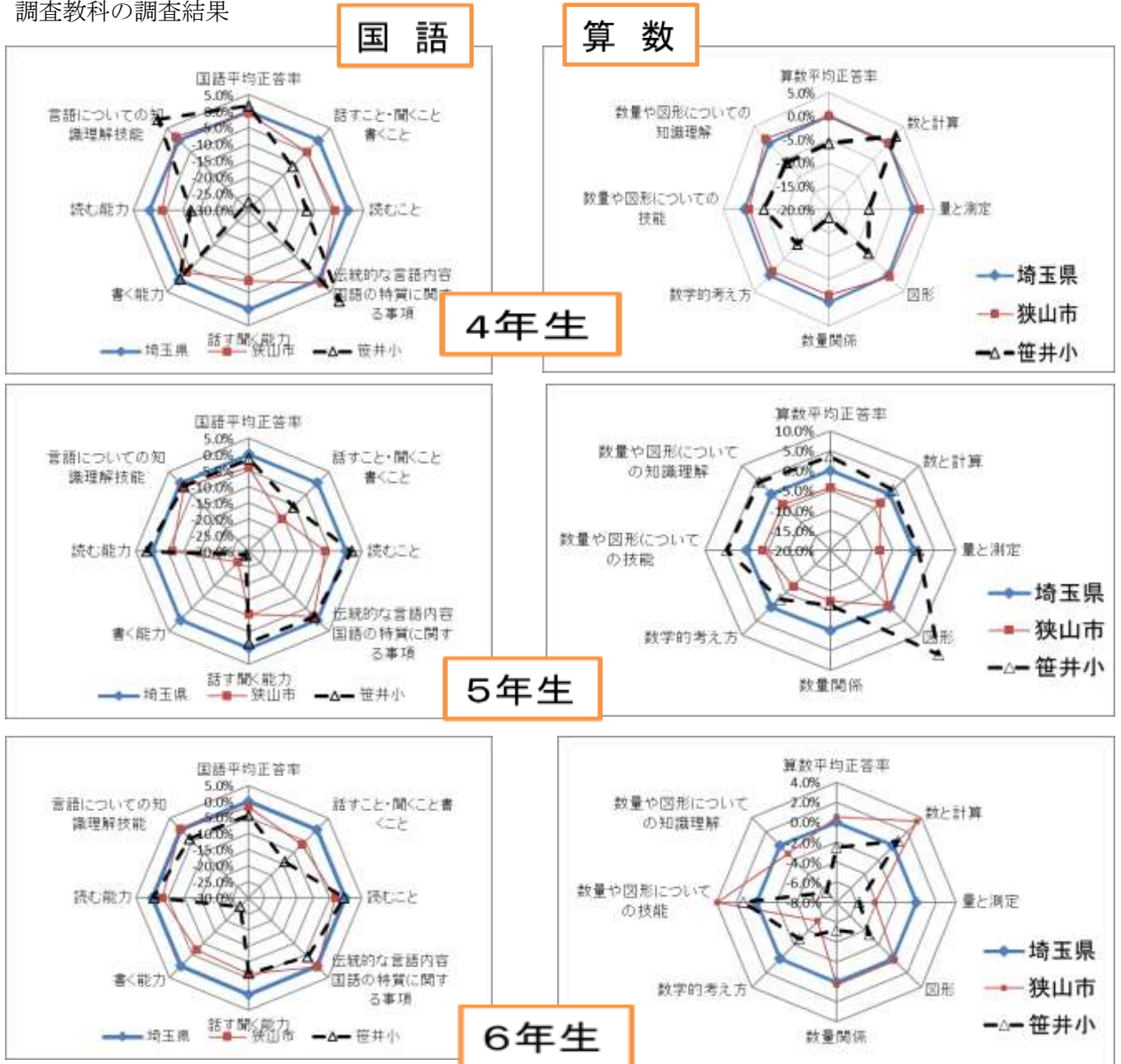
- ①観察・実験の適切な操作についての知識  
※ろ過の適切な仕方  
(問題4-1 全国 71.1% 笹井小 89.7%)
- ②実験・観察の結果を整理して、それぞれ関係づけて分析したことを正しく記述する。※雨が降った時の地面の削られ方  
⇒わかっているが正しく伝えられない。  
(問題2-3 全国 20.1% 笹井小 13.8%)
- ▲③予想をもとに実験や観察を考えたり、結果をもとに自分の考えを改善したりすること。  
※回路を流れる電流が検流計の針で示されている中から予想される結果を選ぶ。(問題3-2 全国 47.7% 笹井小 44.8%)
- ▲④学習の内容をものづくりに生かす。  
(問題1-4 全国 56.6% 笹井小 41.4%)



# 埼玉県学力学習状況調査から

4月に4～6年生を対象として行った、「埼玉県学力学習状況調査」の結果について報告します。

- 1 調査項目
- 2 調査教科の調査結果



< 5・6年生の前年度からの伸びた児童の割合の比較 >

	5年国語	6年国語	5年算数	6年算数
県平均	71.0%	66.7%	77.8%	65.8%
笹井小	78.4%	57.9%	88.3%	61.4%

5年生は前年度から比べて大変よく伸びている。  
6年生は国語と算数の伸びに相関があり、一方だけが伸びた児童は少ない。

【学年ごとの結果から】

<4年生>

(よくできている点)

- ・国語・・・「言語についての知識理解」「伝統的な言語内容」は県平均を上回った。

- ・算数・・・「数と計算」は県平均と同じ  
他は、5～10%ほど低い

・漢字の学習や言葉の意味の定着度は高い。(同音異義語、読み、反対語)

・「数と計算」領域の定着は高い。  
・「数量関係」課題がある。

(課題)

- ・国語・・・県と比べて全体的な力は1%ほど上回った。質問の内容を考えて話したり、書いたりすることや発表にふさわしい内容の図表や写真などを選ぶ力を育てていきたい。
- ・算数・・・問題を読み取る問題の正答率が低い。図形の問題では無回答率が高く、問題が読み取れていないと考えられる。

<5年生>

(よくできている点・伸びた点)

- ・国語・・・主語述語を書きぬく力は県平均より20%ほど高い定着率がある。「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」は県平均と同等か上回っている。県平均より伸びが高い。

- ・算数・・・正答率は県を2%上回っている。図形領域の正答率は、県を10%上回っている。県平均に比べて伸びが高い。

(課題)

- ・国語・・・理由を挙げて答える記述式の回答率が低い。(県と同率で20%程度)
- ・算数・・・角度を求め方の説明が30%ほどしかできていない。

<6年生>

(よくできている点・伸びた点)

- ・国語・・・昨年度に比べて話す力が伸びた。説明を読んで考え方を読み取る力が伸びている。

- ・算数・・・数量や図形について着実に力をつけている。「数と計算」「数量や図形の技能」は順調に力を付けている。

(課題)

- ・国語・・・全体として伸びている児童の県や市と比べて10%ほど数が少ない。国語が伸びていない児童は算数の伸びも少ない。書く力に課題がある児童が多く、2段落構成での文章が書けた児童が県平均より10%近く少なく40%程度であるので、短い作文を多く書かせたい。慣用句やことわざなどに関する知識の充実が必要である。
- ・算数・・・単位当たりの量についての理解が十分でない児童が多い。数値で求めた値から問題に即して答えを判断することが出来ない。(正答率4%)示された図をもとにして式を立て答えを求めることが出来ない。

## 各調査からの課題解決のために

- 1 学年が上がるにつれて、学習の成果の充実や活用する力の充実を図るために、学習時間を有効に使ったり、効果的に使ったりすることが大切になる。同じ時間で学習の中身の充実を図っていくことが重要である。家庭学習の時間が確実に向上しているのでその効果については、各学級で取り組みや内容を高める指導を継続してその成果を評価して高めていきたい。
- 2 自ら学習を進めていくことを重視し、生活の中でも、よく聞き、自分の頭で考え、自分の言葉で話せる授業の確立を進める。指示されたことから、自分で課題を決めて学習を進められるように目標設定を明確にした取り組みを進めていく。
- 3 算数では、授業開始時の小テストを活用し、学習内容に着実な定着を見届けていく。
- 4 自分の言葉で表現できる児童の育成をめざす。(考えて話す力、書く力)そのために、話し合いの機会やノートなどを活用し、確実なまとめと自分の言葉で表現する力を育てていきたい。
- 5 家庭に学習の見届けの協力を要請し、取組にリズムが出るようにしていく。同じ時間、同じやり方の継続を通して、「取り組める力」を身に付けられる児童を増やしていく。

◎県平均を上回る項目が増えてきているのは素晴らしいことです。「取り組んだことはできるようになる。」ことの手応えが出てきた成果です。まず、このことを続けていくことで学力を向上させたいと思います。「児童のやる気スイッチ」を入れるべく学校でも声掛けを行っていきます。家庭でも励ましや確認を一緒に行っていただき、「ほめる」ことから⇒「続ける力」「進んで取り組む力」さらに⇒「自分でやる課題を見つける力」に繋げて子供たちの力を伸ばしていきましょう。